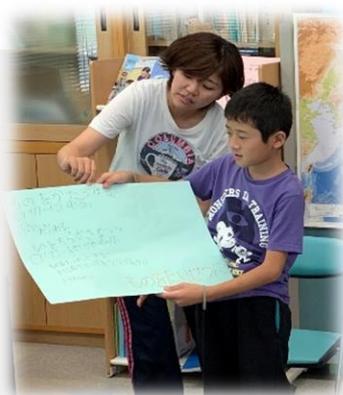


ポジティブな行動支援で 子どもが主役の学校作りへ



～子どもの適応行動を支え、成長を促す～

令和4年2月



和歌山県立はまゆう支援学校

ポジティブ行動支援 (PBS) in はまゆう

ポジティブ行動支援とは？

ポジティブ行動支援 (Positive Behavior Support: PBS) とは、ポジティブな行動 (本人の QOL 向上や本人が価値あると考える成果に直結する行動) を、ポジティブに (肯定的、教育的、予防的な方法で) 支援するための枠組みです。子どもの成長を促すため、望ましい行動を「引き出す工夫」と「認める・褒めることによって、またしたくなる仕掛けづくり」を行います。

ポジティブの
向こう側には...

教員は子どもの成長を感じ、やりがい UP!

望ましい行動をしっかり認める。
正しい行動を教える。

**プラスのサイクルが
回り出す**

子どもはどうすればよいか
が分かる。自信もてる。

学業面・行動面において
前向きで意欲的になる。

目指す子どもの姿

ゆたかな心 たくましい力

健康で安全に
生活する子ども

よく考え、豊かに
表現する子ども

働く意欲・喜びをもち
自立的に生きる
子ども

仲間を大切に
社会生活に参加する
子ども

① 指導の基準 作成

組織的アプローチを行うため
管理職や寄宿舎指導員も含め
全員で意見を出し合う!

「目指す子どもの姿」を踏まえ、子どもの気になる行動と
その行動が解決すればどのような姿が望めるかを具体的に
書き出します。

ex) イライラすると人や物に当たる
→解決すると...人や物を大切にできるようになる

書き出した意見をグルーピングし、カテゴリー化することで
指導において大切にすることが見えてきます。
これが指導の基準!

ex) 人や物を大切にしよう

「〇〇しない」ではなく
肯定的な表現で!
「●●する」「●●しよう」

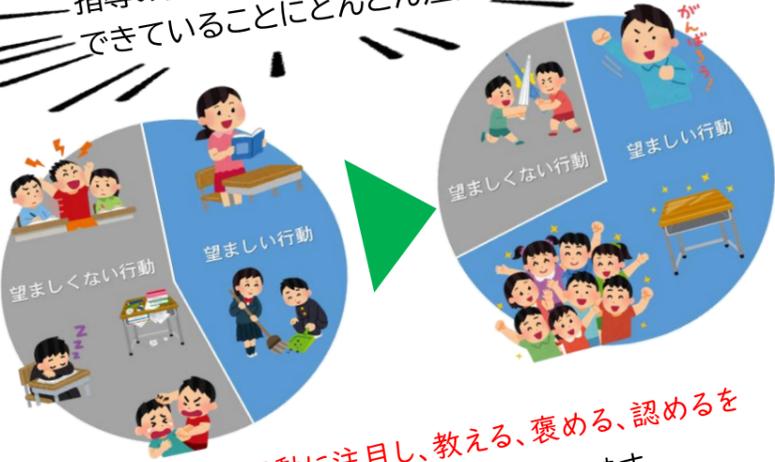
④ ポジティブフィードバック

フィードバックは、大きな意味で
子ども自身や私たち教員の
行動の強化になる!

子どもの行動の良い変化をしっかりフィードバックすることも、PBS を成功させるための重要なポイントです。視覚的に分かりやすいもの、形に残るものでフィードバックすることにより、みんなで変化を共有し認め合うことができ、さらにはがんばるぞ!という気持ちを生みやすくなります。



指導の基準をベースに
できていることにどんどん注目!



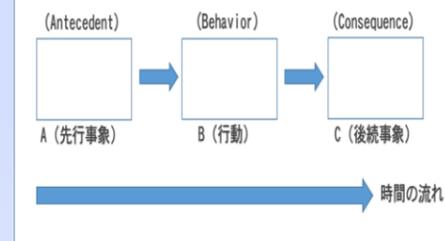
望ましい行動に注目し、教える、褒める、認めるを
繰り返すことで望ましい行動を増やします。
結果として望ましくない行動は減少します。

② ABC フレームを活用したアプローチ

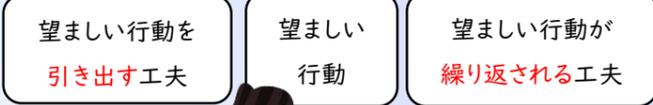
PBS の基本原理である、応用行動
分析学より **ABC フレーム** の活用!

行動の前と後に起きている事象から行動の原理を追究!

人の行動には必ず理由がある!
だからこそ、A (先行事象) と
C (後続事象) を工夫することで
子どもの望ましい行動は起きやす
くなります。



A → B → C



※経験したことがないことは教える

③ データに基づく意思決定

ベースライン (PBS 取り組み前) の
データ収集もしておく、変化が
わかりやすい!

データに基づく意思決定は PBS における欠かせない要素の 1 つ!
日常的な直感や、個人特定の対応で
指導するのではなく、**子どもの行動の
増減をデータにとり、エビデンスに
基づいた指導をチームで検討、共有し
実施することが大切です。**



学校文化として根付く、10 年来の取り組み!



毎週 1 回、15 分授業改善会議を実施!!
この会議を活用し、データを共有したり、望ましい行
動を引き出すための環境設定や行動の後の評価方
法等を話し合ったりします。

『わかって動ける』授業作りと『またしたくなる』仕掛け作り

行動の前

A

望ましい行動を引き出す工夫

- ・具体的な行動を伝える(教示)。
- ・見本を見せる(モデリング)。
- ・視覚的に伝える(掲示)。

行動

B



行動の後

C

またしたくなる
仕掛け作り

- ・子どもの〇に注目できたところ、できそうなところ、しようとしているところを褒める。
- ・ポジティブなフィードバック。望ましい行動を振り返る機会設定。子どもが喜ぶお楽しみを設定。

望ましい行動を育てる ABC

ポジティブ行動支援を進めるにあたって重要なのは、行動の原理を知っておくことです。行動は、①行動の前のきっかけ、②行動、③行動の後の結果の3つの枠組みから捉えると、「どうしてそういう行動を起こすのか？」を理解しやすくなります。こちらが期待する望ましい行動を子どもに伝え、その行動が起こりやすい環境設定を行います。そして、望ましい行動が確認された際には、子どもたちにとって喜ばしい褒美(メリット)を提供し、望ましい行動が維持・増加(強化)する手立てを行います。問題と思われる行動を抜粋して指導を行うよりも、子どもたちの「わかる、できる、動ける」に注目し、自ら取り組もうとする主体的な行動を支えることにより、行動面・学習面の成長を目指します。

授業実践 あそびの指導 ～忍者修行～

集合と整列を目標行動に設定

- ・クラスリーダーの役割設定。
- ・整列位置をマーカーで提示。
- ・場所が変わっても、集合、整列ができていることをほめる(強化する)。

子ども同士のやりとり機会へ

授業が進むにあたり、子どもたちの主体的な活動参加は増加しました。さらに発展的な目標として、「協力する」ことを掲げ、「協力とは？」を意識しながら子ども同士のやりとり機会の増加につなげました。やりとり機会の拡大により、集団における協働的な学びへの発展も見られ、助け合いや、教え合う姿が多く見られるようになりました。個々の実態に応じて教科の評価も行います。

「授業準備は僕たちに任せて！」



忍者になりきるんじゃ☆

授業までに必要な準備を提示し、自分たちで忍者になりきって登場。学習活動にも見通しを持ち、主体的に学ぶ、動く姿を支えます。

ともだちにおしえるんじゃ☆

ご褒美
忍者ぐっしょりシール



みんながかたづけるんじゃ☆



ポジティブフィードバック☆

教員間の話し合いでは、子どもの行動について相談し、支援のあり方や具体的な方策について検討しました。その中の一つとして挨拶(人とのやりとり)を増やしたい行動として設定し、その行動が増える、維持される方略を検討しました。玄関や廊下には子どもたちが振り返られるように掲示されています。教員がチームとなって話し合い、指導、支援を統一していくことが子どもの成長につながります。



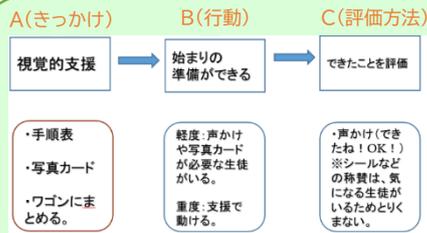
小学部は One Team ☆

小学部全体での取り組み

小学部から中学部へ



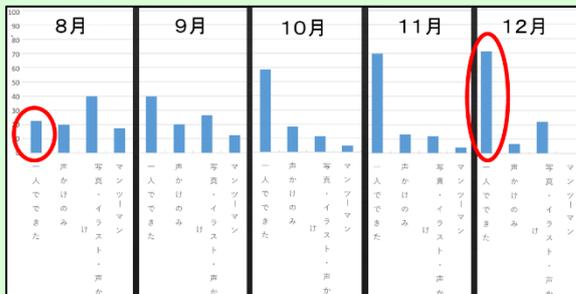
小学部では、健やかな心身の成長、興味関心を広げ、チャレンジすること、人とのやりとりを楽しみ、自己の役割を楽しむことを目標としています。合わせた指導では、様々なあそびや活動を通して成長を促し、中学部へと繋いでいきます。子どもの主体的な活動参加から、子ども同士のやりとり機会の増加や、深い学びへの発展と、学びのサイクルを重視して学部全体で実践に取り組んでいます。



項目	準備状況
① 紙工準備	完了
② 紙工材料	完了
③ 紙工道具	完了
④ 紙工手順表	完了
⑤ 紙工写真カード	完了
⑥ 紙工ワゴン	完了
⑦ 紙工準備完了	完了

各担当場所の教員に、その日の達成度合いを評価してもらい集計をとりました。
(教員の場所は固定)

各月の平均別データ



教員が指示をせず一人で準備ができる割合が8月から比較すると12月にはかなり上昇しました。個別支援が必要な生徒も少しずつ主体的に準備できるようになってきていることがデータから分かります。 **UPI!**

子どもの成長を

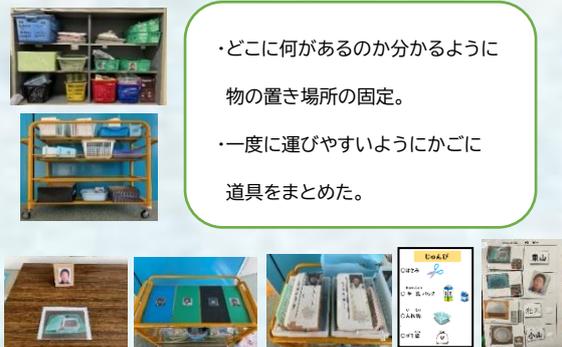
データで「見える化」

教員間で、期待する望ましい行動目標を定めた後、子どもたちの行動の記録を取っていきみます。記録を取ることで、現在の子どもの状態をデータで「見える化」し、子どもたちに対する仕掛けや指導が本当に有効であるのか客観的に検証できます。データに変化が見られなければ、指導の改善を要することが分かります。また、データから子どもたちの小さな変化にも気づくことができ、子どもたちと成長を共有することで、一緒に喜び合うことができます。

本校では、毎週木曜日に十五分間、授業について話し合う時間を設けています。データを活用しながら、授業の改善点について各授業者内で話し合い、子どもにも合った授業作りを行っています。また、四週間に一回、研修時間に授業グループごとの取り組み内容を学部内で紹介し合い、共有を図っています。

授業実践 作業学習 ～紙工作业～

～始まりの準備ができるように視覚的支援の充実～



- どこに何があるのか分かるように物の置き場所の固定。
- 一度に運びやすいようにかごに道具をまとめた。



できたね!
OK!

視覚的に分かりやすく、道具の持ち運びがしやすいように工夫することで、準備しやすい環境作りを行いました。授業が始まる前から準備をする生徒も見られるようになり、それを見て、他の生徒も準備を始める等良い相乗効果も出てきました。出来た時は、「できたね! OK!」と即座に称賛したことで、生徒のやる気に繋がりました。

- 作業場所が分かるように座席に顔写真と道具の写真を貼る。
- 取ってくる場所、片付け場所が分かるように色分けをしたり顔写真を貼る。
- 準備物が分かるように道具に顔写真を貼る。
- 何を準備するのか分かるようにチェックリストや当番表の利用。

みんなで話し合う 15分授業改善会議



授業改善の観点シートとデータを活用しながら15分間1つの授業について話し合いを行っています。改善点を話し合い、考えた改善方法を次の授業で意識し取り組んでいます。

中学部全体での取り組み



全体で振り返り



特に手本となる行動の生徒には表彰

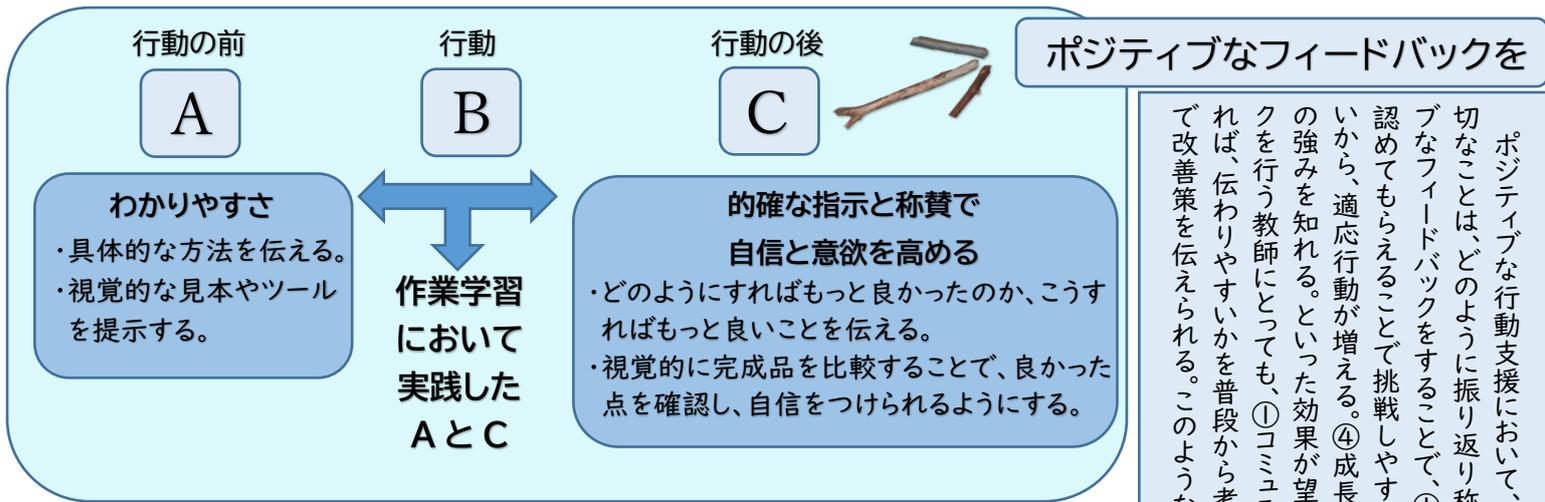
生徒の良い姿を見逃さない、色んな先生から褒められる環境作りのために、グッジョブカードの取り組みを行っています。生徒の良い行動が見られると、教員がその行動をグッジョブカードに記入し、ボードに貼ります。ボードは常に教員、生徒の目に入る場所に設置して、集めた良い行動が見える化しています。また、月初めに集会を開き、振り返りの場を設けています。

中学部から高等部へ



中学部では、思春期を迎え、心身共に子どもから大人に成長していく過程にあります。人との関わりの中で自己を調整する力、自分の思いや気持ちを表現する力、集団の中で育ち合う力、最後までやり通す力をつけることを目標としています。合わせた指導では、作業学習を通して仲間との関わりを促し、共に活動する力を高め、高等部へと繋いでいきます。

行動の後が大事！ 支援学校で進める『ポジティブフィードバック』



ポジティブな行動支援において、生徒自身の良い行動が見られた際に大切なことは、どのように振り返り称賛するかです。生徒に対して、ポジティブなフィードバックをすることで、①モチベーションが向上する。②努力を認めてもらえることで挑戦しやすくなる。③もっと褒められたいという思いから、適応行動が増える。④成長速度が向上する。⑤他人から見た自分の強みを知れる。といった効果が望めます。また、ポジティブなフィードバックを行う教師にとっても、①コミュニケーションが増える。②どのように伝えれば、伝わりやすいかを普段から考えられるようになる。③明るい雰囲気改善策を伝えられる。このような効果も得られます。

授業実践 作業学習 ～木工作业～

「昨日の自分を超越る！！」
ための、ポジティブフィードバック

細かな箇所にも目を配り、アドバイスや称賛を行うことで、モチベーションや自己肯定感を高められるようにしています。過去に作った製品や前回のポイントと比較して、良くなった所やうまくなった所は、「できた」という実感を持たせるため製品等を提示し、視覚的に振り返って褒めるようにしています。

「報告・連絡・相談ができる」を目標行動に設定
授業開始直後や終了間際等に「報告・連絡・相談」タイムを設定しました。取り組みを重ねるにつれ、少しずつ教師と話し合える生徒が増えていきました。また、話し合いの内容にも変化が見られ、より良い製品作りができる生徒が増えてきました。

学部全体でのポジティブフィードバック



生徒の適応行動を目に見える形で褒めるため、ポジティブチケットを作成し、活用しています。言葉での即時評価もちろん大切ですが、チケットを渡すことで、よかったところをより具体的に生徒に伝えることができ、褒めてもらったという意識が強くなります。

チケットの枚数をグラフ化し、発行されたチケットの半券も貼り出すことで、高等部全体でどれだけチケットをもらったのか、見て分かるようにしています！



またやりたくなる仕掛け作りも！

毎月、チケットの発行枚数が多いクラスを「ポジティブキング」として表彰！ポジティブ会のメンバー手作りの賞状をプレゼントし、チケットをもらおうとする意欲UPを目指しています！



この取り組みを支えるのは 『ポジティブ会』のメンバー！

生徒の参画を大切にするため、「ポジティブ会」を発足。週に1回、学部の代表として責任をもって仕事に取り組んでいます。チケット作成や、各クラスのチケット枚数の計算、昼休みの放送等を行っています。他にも、週の始まりに元気の出るテーマソングを流しています。生徒達は、そのテーマソングを聴いて、ポジティブに学校生活を送っています。



高等部から社会参加へ

高等部では、3つのコース制に分かれており、それぞれのコースで小学部や中学部で積み重ねてきた力を発揮できるような学習環境となっています。また、社会参加に向けた作業学習では、卒業後社会で活躍できるように、社会人としてのマナーやスキルを身につけるための学習を行っています。生徒ひとり一人が自分のペースで社会参加に向けた準備に取り組んでいます。



ポジティブ行動支援 実践者の声

こんなにも変わるのか！大人も子どもも、ポジティブチェンジ！



子どもの困った行動に対して、「直したい、変わってほしい」という思いから、注意をしたり、時には強く指導にあたることもありました。しかし、ポジティブ行動支援を学んでいく中で、「褒めることの重要性」を強く実感するようになりました。困った行動よりも、普段できている行動に注目し、その行動の素晴らしさを伝える学級運営に取り組みました。今年度は「優しい言葉」をキーワードに、「手伝おうか？」や「大丈夫？」、「ありがとう」などの言葉のやりとりが生まれるように具体的に提示しました。学級全体で「優しい言葉」が見られた際は花丸シールを使って賞賛し、みんなで花丸カードを集める活動にも取り組みました。花丸カードがたまったら先にはお楽しみ会を設定し、自分たちの行動がうれしい結果につながる工夫を施しました。花丸カードをもらえるコツをつかんだ児童はたくさん褒められ、周りの児童にも広がり、今では「優しい言葉」が飛び交う学級運営が続いています。また、ポジティブ行動支援の強みは学校全体でチームとして取り組むことです。子どもへの指導に迷ったときも、チームとして指導、支援を検討し、統一したアプローチが展開できます。特別支援学校ならではの強みを生かし、子どもも教員も幸せな学校作りに今後も取り組んでいきたいと思ひます。

小学部 中村侑介 教諭

教員2年目となり、子どもの困った行動を望ましい行動に変えられるよう、スキルアップしたいと思っていました。そこで、ポジティブ行動支援の考え方を受けて私が実践したことは、「子どもと一緒に取り組み、できたことを一緒に喜ぶ」ことです。

自信のなさ等から、学習に対して消極的になってしまう子どもは少なくないと思ひます。そんな時、「これだったらできそうかな？一緒にやってみようか。」「こうしたらできたね！」と前向きに接してみると、子どもも前向きな気持ちになって取り組めることが増えました。言葉かけを励みに活動に取り組み、できたことや努力を称賛してもらおう…こういった成功体験の積み重ねが成長に繋がったのだと実感しました。

私自身、ポジティブ行動支援の実践を通して、前向きな接し方や言葉かけで生徒に向き合う意識がさらに強くなり、生徒と共に成長できたことをとても嬉しく思ひます。



中学部 中林千陽 教諭

困った行動をやめたくてもやめられない生徒、その行動に対する指導に悩む教員…お互いが困っている状態でした。一方で、気持ちが落ち着いている時には、教員の手伝いを申し出たり、係活動に積極的に取り組んだりする等の適応行動が見られる生徒でした。そこで、困った行動をやめさせるのではなく、適切な行動を教え、評価し増やしていくことにしました。頑張る内容を表にすることで、目に見える形で望ましい行動を具体的に教え、本人の努力や変化を褒め、認め、励ますことを繰り返しました。その結果、今まで受け入れられなかったルール等も自主的に守り、頑張り表を支えに自分で行動を変えられるようになりました。苦手な授業の前でも気持ちをコントロールし、前向きな言動も見られるようになりました。当初の困った行動も、確実に減少していきました。

ポジティブ行動支援に取り組んでみて、この子はこういう子だから… という固定観念でかわるのではなく、変えられる環境は何か、その子の伸ばせるところは何か、といった視点を持ち、望ましい行動をどんどん増やす工夫をすることが大切だと、改めて感じることができました！



高等部 平田実咲 教諭



畿央大学 教授
大久保 賢一 氏

創造する、共有する…
そして楽しむ！

～「はまゆう支援学校」×「ポジティブ行動支援」が生み出すもの～

ポジティブ行動支援は、子どもの視点に立ち、子どもが抱える様々な困難性を理解しようと努めるためのプロセスです。その過程は行動科学に基づく合理的なものであり、教職員の創造性を引き出すものです。はまゆう支援学校の先生方はこれまでの取り組みの中で、スマートでユニークで温かな数多くの創造を行われ、それらを共有し、そして何よりそのプロセスを楽しんでおられるように見えました。ポジティブ行動支援のゴールは「すべての関係者のQOLの向上」です。プロジェクトの継続とさらなる発展を心から期待しております。

本研究における、3年間の御指導と御協力に感謝を ～special thanks～

あなたが取り組んだ ポジティブ行動支援と、 How was it? その成果は？

